

第1番霊場

薬師寺

薬師寺は天武9年(680)に第40代天武天皇が皇后鸕野讃良皇女(うののさららのひめみこ)(第41代持統天皇)の病氣平癒を祈って発願されました。697年には本尊薬師如来の開眼が行われたと『日本書紀』に記されています。

近鉄西ノ京駅を下車して参拝される方は與楽門(よろくもん)(裏門)から入り、東僧坊(御朱印所)を通り、国宝東院堂へ参拝の後、中門をくぐると薬師寺式伽藍「龍宮造り」とよばれる裳階(もこし)のついた壮麗な堂宇の姿が目飛び込んできます。唯一創建時から現存する国宝東塔は「凍れる音楽」と称される三重塔です。また昭和から平成にかけて高田好胤和上によるお写経勸進により復興された金堂(こんどう)・西塔(さいとう)・回廊・大講堂は、「青丹(あをに)よし」と呼ばれる朱塗りの柱、青=緑色の連子窓は1300年前の姿を今に観るようであります。



「このパンフレットを手にとったのがご縁のはじまりです」
医薬兼備の薬師如来様を各寺に訪ねてください。仏様のお姿に手を合わせ拝む姿は美しく、仏様の中には胸元で手を合わせておられる方もあります。拝む姿が拝まれているのと同じです。薬師経十二大願の二つに、「菩薩が如来(最高の悟りを得る)になったとき、身体から光を放し、照らされた人が皆、自分と同じように光り輝く悟りに導きたい。」と願われます。ご自身の心を見つめて、一度大きく息を吐きます。すると今度は、鼻から新鮮な空気が身体いっぱいに入ってきます。仏様の慈悲と智慧の心を感じてください。



42号

発行所
西国四十九
薬師霊場会

編集 教化委員会
印刷所 宗教印刷株式会社



【修正会】

除夜の鐘と共にけしまる吉祥(きちじょう)悔過(けか)法要は、15日まで金堂、薬師如来様のご宝前に秘仏吉祥天女画像(三箇所は国宝)を安置して初祈願、国家繁栄・天下泰平・万民豊楽・五穀豊穰・家内安全・身心安楽などを祈ります。悔過(けか)とは、人間が自覚・無自覚の内に作ってしまった様々な罪を反省し、より良い生き方に改めるといことです。

【初薬師縁日】

正月8日は薬師如来さまの初縁日として11時より大般若経転読法要を行います。13時より管主の法話も拝聴できます。(毎月8日は薬師縁日として八日札という特別の護符があります)

【修二会】

3月25日から31日まで花会式薬師悔過法要といつて、金堂の薬師三尊のご宝前に10種の造花を荘厳して初夜・半夜・後夜・晨朝・日中・日没の「六時の行法」を行います。



詳しくは、薬師寺
<https://yakushiji.or.jp>